2025年度 神戸市外国語大学大学院入学試験
文化交流専攻 言語コース (欧米言語演習)
出題意図

問題Ⅰ

本設問は、受験者が Kintsch の談話理解モデル に関する理論的理解を深く習得しているかを評価することを目的としている。特に、テキスト記憶の 3 つのレベル (表層コード、命題テキストベース、状況モデル) について、それぞれの特性を適切に説明できるかが問われる。また、状況モデルが深い理解に重要な役割を果たすことを踏まえ、読解力向上のための指導法を提案できるか も評価対象である。

さらに、本設問は 論理的な論述力 や 英語での学術的記述能力 を測る意図も含まれる。500~800 語の制限内で一貫性のある議論を展開し、理論的根拠に基づいた解答を作成する能力が求められる。本設問を通じて、受験者の 第二言語読解に関する理論的知見 と、それを 教育実践へ応用する力 の両方を総合的に評価する。

問題Ⅱ

本設問は、社会文化理論 (Sociocultural Theory, SCT) に基づく第二言語習得 (SLA) のメカニズムを正確に理解し、それを日本語で適切に表現できるかを評価することを目的としている。

SCT は Vygotsky の理論 に基づき、文化的・社会的媒介を通じた認知発達 を重視するアプローチである。受験者は、本英文に含まれる SCT の基本概念 (媒介、文化的活動、発達の社会的要因、教育環境における相互作用など) を的確に理解し、それを日本語に適切に翻訳する能力が求められる。

さらに、この問題は 単なる直訳ではなく、概念を正しく伝える意識力 も重視している。原文の論理構造を保持しつつ、日本語として自然で明確な文章にすることが求められる。これにより、受験者の 英語読解力、翻訳力、SCT に関する理論的知識 を総合的に評価する。

問題Ⅲ

本設問は、第二言語習得研究における、実験・調査のリテラシー (研究結果の適切な解釈) を問うことを目的としている。

特に、本英文では 相関関係 (correlation) に基づき、因果関係 (causation) を示唆するような表現 (These results suggest that vocabulary and grammar instruction play an important role in developing L2 reading skills) が含まれており、この点を批判的に捉えられるかが重要なポイント となる。受験者は、単なる英語読解・翻訳能力にとどまらず、統計的手法に関する基本的理解を持ち、研究結果の解釈における適切性や論理的飛躍を判断できる能力 を示すことが求められる。

この問題を通じて、第二言語習得 (SLA) 研究におけるデータの読み取り・解釈に関するリテラシー、および 批判的思考力を備えた学術的な姿勢 を評価する。